平成２９年度　第２回生涯学習審議会（第６期第４回）　議事録

１　日　時

○　平成２９年８月２２日（火）　１３：４５～１６：２０

２　会　場

○　ＭＵＫＡＳＡ－ＨＵＢ（ムカサハブ）

３　出席者

○　宮崎県生涯学習審議会委員　※別紙

４　開会行事

○　会長あいさつ

５　説明・見学

「ＭＵＫＡＳＡ－ＨＵＢと持続可能な地域社会」有限会社一平　代表取締役　村岡　浩司　氏

・「九州パンケーキ」ができるまで
・まちづくりに携わった経験から
・地元に根づく産業を生み出す
・創業支援～ＬＳＳ（Ｌｅａｒｎｉｎｇ　Ｓｔａｒｔｕｐ　Ｓｕｐｐｏｒｔ）プログラム
・ローカルベンチャータウン構想　３年間で３０社
・道徳のない経済は犯罪　経済のない道徳は寝言（二宮尊徳）
・地方創生の拠点（ハブ）を創る
・地域の期待を超えよう～３％だけ　積み重ねていけば宮崎も活性化する

事務局　質問等はないか。

委　員　「九州パンケーキ」は、アメリカ等にも進出している。パンケーキは、元々欧米が主力だと思うが、それに敢えて挑戦した理由を聞きたい。

講　師　ロサンゼルスで日本の企業進出をサポートしてきた公認会計士に話を聞く機会があり、これからの中小企業が成長する唯一のフロンディアは「食」であると言われた。日本の農業を日本独自の文化に基づいた付加価値を付けた農業・商工をどれだけ世界中に発信できるかだと思う。「ソーシャルグッド」という潮流が世界中にあって、どこで採れて、どこで作って、というトレーサビリティがとれている安全、安心な商品はあまりない。アメリカのパンケーキミックスを比べた時に、味もクオリティも負けていない。値段だけは負けているが、ソーシャルの発展によって、想いが伝わる時代になったので、少しずつだが欧米と戦える状態になった。また、九州パンケーキは、プラットフォームなので、そこに野菜や肉が必要になってくる。今後、野菜や肉をつくっている人たちの想いも一緒に届けていけるようにしたい。

委　員　　経済がまちづくりに必要だということはわかるが、経済活動ではないが、地域の拠点として、赤ちゃん、高齢者などが集うようなハブの構想があるのか。

講　師　　ここでやりたいことは経済の一点突破で考えている。
　ただ、地域の課題解決のために行うサービスがビジネスになる、という極めてストレートな時代に戻ってきた。
　今は民でスタートしているが、今後、今質問にあった子育て支援施設などを含めて、行政や企業と連携した取組が、自然発生的に広がればいいと考えている。

（※施設内の見学）

６　協　議
「持続可能な地域社会を創るみやざきならではの生涯学習の在り方について」

※事務局より前回の審議について説明

※相戸副会長より説明
「学びを地域づくりに生かす方策」参加から参画への段階的支援の事例」

会　長　　説明について質疑等はあるか。

委　員　　地域参加した８人について、距離を縮めることができたのは、コーディネーターの存在があったのか。

副会長　　８人それぞれ関わる人は違っていた。公民館の職員であったり、図書館の司書であったり、入り口は様々である。その人の興味関心から、上る階段はそれぞれでよい。お祭り、地域の清掃活動など、あらゆるところにきっかけがあるというアンテナをはる学習支援の資質をもった人を地域にたくさん作るのが重要である。

委　員　　とても重要な視点で、その人の状況により上がりやすい階段があるのだと分かった。

会　長　　他にあるか。

委　員　　紹介のあった方々は、学びを必要としている方という印象があったが、そうでない人たちが集まった場合はどうすればよいのか。

副会長　　今回の８人の中には、問題意識が全くないという人はいなかったが、最初から学習意欲がない、全くの無関心の人も階段を上がってくれるという仮説のもとに取り組んでいる。今回とは別に関わっていた母親で、時間はかかるが、少しずつ変わっていったという事例もある。

（　休息　）

※小グループによるワークショップ形式の協議

事務局　各グループの報告をお願いしたい。

委　員　（Ａグループの報告）

子どもの参画について協議した。子どもたちを「参加」から「参画」させるには、について協議した。発達段階から考えると、いきなり「参画」は難しいので、始めは「参加」からスタートとなるが、学校としては、受け身であっても仕掛けていくということで、カリキュラムの中に地域学習などを位置付ける。これは既に行っているのだが、学校は地域からのイベント等の依頼についても調整しながら、双方向で実施するといことをシステム化していかなければならない。

「参加」の段階では、地域の人とコミュニケーションをとるということが重要で、地域の人と関わることで、地域のよさに自然と気付いていく。さらに、発達の段階に応じて、「参加」の中にも課題を与えるという仕掛けを教員がしながら、漠然と「参加」するのではなく、何のために参加するのかという課題意識をもたせるなど、「参加」の質を上げるよう学校で手立てをとることが大事である。

さらに成長にしたがって、学校で学んだことを地域の役に立つことはないか、という課題解決的な学習にまで引き上げていくことが重要である。それが地域に主体的に関わるという「参加」から「参画」になるのではないか。

できれば、地域や行政で行っている事業に、企画の段階から関わって、提言まで行えれば理想である。実際に行っている学校もあるので、そのあたりまで意識して取り組むことが必要である。

最終的な課題としては、幼保小中高大学間のつながり、連携しながら取り組んでいくことが必要である。

また、学校と地域をつなぐ、幼保小中高大をつなぐ、コーディネーターの役割が必要である。学校に新たな取組は難しいので、多忙感の解消するためにも、質を高めるためにもコーディネーターが必要である。

さらに、これらのことを進めていくためには、地域・学校・家庭等が一体となって取り組まなければならないという地域の方々の共通理解が必要である。

最後に、親や教員など関わっている地域の大人が地域のよさを知らないのではないかという課題もあるので、子どもと地域づくりの学習をする中で、親も巻き込んでいくことで、地域について気付いてもらうという意見も出た。

委　員　（Ｂグループの報告）

子育て世代の参画について協議した。子育て世代の人たちがどのようにしてＰＴＡの役員をするようになったか、消極的だった人たちが一歩踏み出せたきっかけは何かについて、各々のステージで考えた。誕生-、幼稚園・保育園入園、小学校入学、中学校入学、高校入学、という各々のステージで、様々な入口がある。

誕生であれば検診、入園すると子育て広場、子育て支援センター、今は幼稚園・保育園でも始まってる場所もあると思うが、小学校に入ると家庭教育学級、ＰＴＡ活動、さらにスポーツクラブへの参加という入口もある。私自身もスポーツクラブが、社会参加へのきっかけであった。その中でお祭りであったり、清掃であったりする。さらに中学校に入学してもＰＴＡ活動が続き、地域の役員をする人もいる。

それぞれのステージで、様々な入口がある。その入口を上手くキャッチして、次の

段階に上る人もいるが、大事なのは「声を掛ける人の存在」である。

役員をやっていると、自分の後に役員になってくれる人を探すが、その人に少しずつ役割を与えながら、ステップアップできるように支援をしていく。

それぞれのステージは、例えば入園から卒園などといった期限がある。その限られた期限の中で、次の世代に引き継ぎをすることが、インプットだけでなくアウトプットする場になり、自分の成長や周りの成長にもつながる。

「参加」から「参画」できるようするには、「できる人が、できることを、できるときに行う」ことではないか。みんなが同じことを同じように分担するのではなく、「あなたができることを、その場でしてください」という姿勢が必要である。

委　員　（Ｃグループの報告）

子育て世代以降の方々の参画について協議した。この世代が自ら学びに参加するときの課題に、まず気持ちの問題がある。自分の課題を知られたくない、時間がない、あきらめ、メリットを感じないなど様々だされた。

次に、条件面の問題として、情報が届いていない、時間に余裕がない、経済的な問題、体が動かないという問題がある。

また、参加者側の問題として、料金や場所、内容と自分の学びとのマッチングや、声を掛けてくれる仲間（支援者）がいるかどうかという問題がある。

支援者同士のネットワークが強いかどうかによって、情報提供や学びの継続につながる。そうすることで、参加者がいずれ支援者になっていく、それがコーディネーターの育成にもつながるのではないか。

先日、東京で行政と連携して地域づくりを３０年ほど続けている民間業者の方の話を聞いた。あらゆる世代をランダムに呼んで、まちづくりのワークショップを繰り返し行うことで、まちに対する興味・関心が高まる人が増えていくという話であった。先ほど話があった小中高で「参加」する場を設けることにもつながると感じた。

事務局　それぞれの発表に質問等はないか。

なければこれで協議を終了する。

７　閉会行事

○　生涯学習課長あいさつ

○　諸連絡

※今後の審議日程について

第６期 宮崎県生涯学習審議会　委員名簿

（任期：平成２８年８月２８日から平成３０年８月２７日まで）

	区分	氏　　名	所属・役職等	備考
１	青少年・成人教育・家庭教育	宮本　紀世	国富町地域婦人連絡協議会　会長	
２		原田　和代	ドロップインセンター副理事長 エンパワメントみやざき顧問	
３		中村　かよ	前ガールスカウト宮崎県連盟長	
４		美根　香奈子	前宮崎県ＰＴＡ連合会　副会長	
５		柿木　恵子	えびの市立岡元小学校　校長	
６		大山　江里子	西都原考古博物館　副館長 （前県立富島高等学校　校長）	
７		野﨑　優子	都城市立高城小学校　ＰＴＡ副会長	
８	地域づくり	長鶴　美佐子	県立看護大学看護学部　教授	
９		島中　星輝	ＢＲＩＮＧ株式会社　代表取締役	
１０		相戸　晴子	宮崎国際大学教育学部　准教授	
１１		黒木　朋子	宮崎県演劇協会　会長	
１２		青木　雄正	認定こども園伊勢ヶ浜保育園　事務長	
１３	学習支援	吉里　光弘	青島青少年自然の家　所長	
１４		岡林　　稔	前放送大学宮崎学習センター　所長	
１５		竹村　　剛	株式会社宮崎放送　営業局長	
１６		川越　美佐樹	九州電力株式会社延岡営業所 営業計画グループ　副長	
１７	行政	松田　和弘	小林市教育委員会社会教育課　主幹	
１８		松野　　隆	市町村教育委員会連合会　会長	